

島根 更生保護

NO.196

(平成30年1月1日発行)
島根県保護司会連合会

〈島根更生保護データ〉

保護司総数	499人
保護観察事件	134件
生活環境の調整事件	253件

(29.12.1現在)



コウノトリ (雲南地区 藤原静雄保護司提供)



「感銘」し合う一年に

中国地方更生保護委員会

委員長 荒木龍彦

新年明けましておめでとうございます。今年も皆様それぞれにこの一年の抱負を新たになされたことと思います。

さて私たちの仕事の中で、「相手に変わってもらおう」ということはなかなかたいへんなことです。本人が困っているはずのことは何か、不利益になることは何か、だから犯罪前歴の人も行動をこんな風に変えてもらいたい。私たちのそんな思いや働きかけにも、なかなか思うようには応えてもらえないものです。変わるきっかけは、理屈よりも別のところにあるようです。

先日、ある会議で、アルコール依存症の人が断酒の自助グループに定着できる要因は何だろうかという議論になりました。その時にある病院のワーカーの方が、そのきっかけは「感銘」の体験だと話して

いました。そのことはその会議で述べられた依存症の方の体験談の中にも表れていました。

「僕がミーティングの出席を続けるようになったのは、初めて付き添いなく一人で参加した時に、他のメンバーから『一人で来たんだね、すごいねえ』と言われてからです。その時はそれがすごいことなのかなあと変な気分でしたけど、そんな声をかけられてとてもうれしかったのを覚えています。」

保護観察など更生保護の活動も同じで、そういえば保護司さんなど関係者の方々には、相手に出会いの中で「感銘」を与える達人がたくさんおられるなあと思い返したものでした。

一方、自助グループの集まりで声をかけた側の人も、相手のその後の変化にきっと「感銘」を受けたはずです。与えた「感銘」は自分にはね返ってきますね。

私たちの日常の人間関係でも同じです。相手を思いやる言葉を惜しまず「感銘」し合う場面を、今年は昨年以上に意識して増やしてみませんか。私もそうしたいと思います。

この一年のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



島根県保護司会連合会
会長 坂本圭祥



新春を寿ぎ、謹んでお慶び申し上げますとともに、更生保護関係者各位のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

本年も安心・安全な地域社会の構築を目指し、地方公共団体をはじめとする関係機関・団体と更に綿密な連携を図り、更生保護事業の充実と発展に努力する所存でございますので、皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

更生保護法人更生保護施設「しらふじ」
理事長 吉長義親



謹んで新春のお祝を申し上げます。旧年中のご支援に感謝し、皆様の本年のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

本年も、創立の理念であります「愛」の心を大切に利用者に接し、再び罪を犯すことのない人づくりに励み、犯罪や非行のない明るい社会づくりに努めます。本年からは、退所後の方との繋がりも大切にします。皆様には、引き続きご理解・ご協力を心からお願い申し上げます。

島根県更生保護女性連盟
会長 板倉靖子



新年あけましておめでとうございます。島根県更生保護女性連盟の活動に対しましてご理解とご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

私達島根県更生保護女性会員は、本年も力を合わせ、犯罪のない明るい社会を願って、更生保護活動に協力してまいりたいと存じます。

皆様方には本年も変らぬご指導、ご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

松江保護観察所
所長 山本隆宏



新年明けましておめでとうございます。平素は更生保護事業に御尽力・御支援を賜り深く感謝申し上げます。

昨年度は再犯防止推進法が施行され、国、地方、民間の3者が連携し、地域のニーズに沿った再犯防止施策を進めていくこととなりました。すでに独自の取組を始めた県や市もあります。当庁も関係各方面との連携を密にし、地域性に見合った再犯防止施策が進められるよう取り組んでまいります。引き続き御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

更生保護法人島根保護観察協会
理事長 古瀬誠



謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

再犯防止推進法が施行され、ますます更生保護の重要性が高まる中、本年も更生保護事業の充実と発展に取り組み、犯罪や非行のない明るい社会の実現に向けて努力してまいります。

皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

島根県就労支援事業者機構
会長 古瀬誠

新年明けましておめでとうございます。安全・安心な社会実現のためには、犯罪をいかに少なくするかが重要です。

刑務所出所者等の再犯を防ぐためには、彼等が就労して、経済的に自立することが不可欠であり、この就労支援を組織的に実施していくことが求められています。

本年も、会員のご協力を得ながら、就労場所の更なる拡大に努める所存でございます。

今後とも一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

島根県BBS連盟
会長 春日智徳



新年あけましておめでとうございます。

平素は、BBS活動にご協会を賜り厚く御礼申し上げます。

犯罪のない明るい社会と罪を犯しても再犯を繰り返すことがない、あたたかい社会を関係者と手を取り合い目指していきます。

引き続き皆様のご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

平成29年度島根県更生保護事業関係者顕彰式典

平成29年11月15日(水)松江市総合福祉センターに多くの更生保護関係者が参集し、来賓として中国地方更生保護委員会荒木龍彦委員長、中国地方保護司連盟(島根県保護司会連合会)坂本圭祥会長、松江地方・家庭裁判所木納敏和所長、松江地方検察庁國分敬一検事正、島根県溝口善兵衛知事(島根健康福祉部青少年家庭課黒田利恵課長)、松江刑務所小沼孝行所長、島根あさひ社会復帰促進センター久野正道センター長(佐藤浩樹総務部長)、松江少年鑑別所中西和久所長のご臨席を賜り標記顕彰式典が開催された。当日は、坂本島根県保護司会連合会長の式辞、山本松江保護観察所長の挨拶に続いて、永年、更生保護事業に功績のあった384名の方に表彰状及び感謝状が授与された。表彰及び伝達終了後は、受彰者を代表して、邑智地区保護司会の下垣賢治保

護司からの謝辞がなされ、続いて、荒木委員長、木納裁判所長、國分検事正、島根県知事(黒田青少年家庭課長代読)からの祝辞を賜った。その後、来賓紹介・祝電披露と続き、島根県保護司会連合会和田良一副会長の万歳三唱により式典が終了した。



万歳三唱



開式の辞



法務大臣表彰



全保連内助功勞表彰



受彰者代表謝辞



閉式の辞



法務大臣表彰者

平成29年度 各種表彰受彰者 (敬称略)

法務大臣表彰

[保護司]

- 井谷 耕造 (松江)
- 佐々木 滋子 (松江)
- 楫野 光範 (安来)
- 田中 壽美夫 (安来)
- 松田 勉 (雲南)
- 川上 清子 (出雲)
- 川本 龍祥 (出雲)
- 野田 律子 (邑智)

- 下垣 賢治 (邑智)
- 鹽谷 法顯 (浜田)
- 吉本 茂生 (益田)
- 鶴永 哲也 (益田)
- 松本 剛幸 (隠岐)

法務大臣感謝状

- [更生保護女性会員]
- 鐘築 章恵 (出雲)
- [全国保護司連盟理事長表彰]
- [保護司]
- 永戸 賢樹 (松江)
- 福井 邦昭 (松江)

- 永瀬 晃 (雲南)
- 園山 恵子 (出雲)
- 月森 勝博 (大田)
- 兒島 光明 (大田)
- 瓦田 富子 (浜田)
- 草野 和馬 (益田)
- 木村 與志雄 (益田)
- 吉田 均 (隠岐)

[内助功勞者]

- 石川 正子 (松江)
- 田中 紀子 (安来)

全国更生保護法人連盟理事長表彰

- 浅野 俊雄 (しらふじ)

日本更生保護女性連盟会長表彰

[更生保護女性会員]

- 福田 瑞枝 (安来)
- 渡部 榮子 (斐川)
- 錦織 栄子 (大社)
- 岩谷 藤子 (浜田)

日本BBS連盟会長表彰

- 春日 智徳 (出雲)
- 中島 大棋 (出雲)



更生保護功勞による
叙勲・褒章 (敬称略)

瑞宝双光章 青木 壯文 (松江)
藍綬褒章 波田 英機 (益田)



10年前の喜びが再来

松江地区 青木 壯文

平成19年秋に藍綬褒章の榮に浴しましたが、ちょうど10年後、平成29年秋の叙勲に際し、松江保護観察所よりご

推薦を賜り、瑞宝双光章の榮に浴しました。

10年前を思い出しながら、法務省での伝達式に参列し、その後、皇居へ赴き、豊明殿において、再び天皇陛下に拝謁する榮を浴しました。

とても感激でした。この上もない喜びを与えて頂きました観察所を始めとし関係各位の皆様には厚く御礼申



秋の褒章を拝受して

益田地区 波田 英機

この度の秋の褒章に際して、はからずも身に余る藍綬褒章拝受の榮に浴しました。去る11月14日法務大臣から褒

章の伝達を受け、引き続き皇居に参内し豊明殿に於いて、天皇陛下の拝謁の榮譽と共に御言葉を賜り感激の極みでありました。

この褒章は多年にわたって関係機関、諸先輩等多くの皆様から頂きましたご指導の賜物と深く感謝を申し上げます。

申し上げます。

顧みますと、保護司歴40年間大過なく務めさせて頂きましたが、最近、印象深く残っている思い出は、松江地区保護司会会長時代に松江市長様を始めとし、健康福祉部長様・松江市社会福祉協議会様等々のご理解ご協力を賜り、鳥根県内で最初にサポートセンターを開設することが出来たことでしょうか。そして、センターが保護司の方々の活動拠点となり、更生保護活動の充実を図られていることです。

末筆ながら、10年前の喜びと今回の喜びを与えて頂きました皆様に感謝申し上げますと共に、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。

思えば平成4年春、保護司を受けるにあたって職場の上司に相談したところ社会貢献になるから受けて頑張れと激励されて保護司を拝命して以来今日までの25年間、道のない更生保護の道程を歩むことが出来ました。

今、国は再犯防止等の推進に関する法律が施行され、県市町において再犯防止の為の計画を立て各種施策の充実を早期に図ることとなりました。

私も保護司の在任期間残り僅かとなりましたが、この榮譽に恥じる事なく、地域の実態に即した更生保護活動に一層努力する所存ですので、何卒宜しく願い申し上げます。

まちづくり活動を通して 保護司会活動をアピール

大田 S・N生

平成12年、当時の町役場から推薦を受け、何もわからないまま保護司を引き受けた。立て続けに3件の対象者を受け持ったが、主任官の懇切丁寧な指導を受け、無事任務を終える事が出来た。その後、当地域は急激な高齢化や少子化で典型的な過疎の村となり、事故、事件等ほとんどない。

従って、保護司の大切な使命である保護観察や生活環境調整などの活動はない。

このような状況の中、保護司としてどのような活動をしたらよいか自問自答する中で、当地域では保護司の役割や、「保護司」そのものに対する理解が非常に希薄であることが分かった。

犯罪者にならないのは紙一重の差であり、これを回避させるのは平素から地域全体での防犯意識高揚が大切であることを確信した。

大田市は平成17年1市2町の合併が行われ、新市の活性化を目的に各町単位27地区に「まちづく

視点

焦点

りセンター」が設置された。S・N生はそのセンターの一職員となり、センター事業を実施していく中で、まちづくり活動を通して、防犯活動や更生保護活動のアピールを実施した。

具体的な活動は、地区みまもり隊の総会において「大田地区保護司会」会長から「保護司とは」や「更生保護活動」全般についてお話しいただいた。また、7月の「社会を明るくする運動」期間中は、交通安全協会と合同で幟旗を立てたり、春秋の交通安全期間中には、警察の協力を得てパトカーの先導で、青色パトロール隊とともに地区全域の防犯パトロールを行い、また、年末には歳末警戒出発式など、常に保護司も参画し地域に溶け込んだ活動を行い、犯罪抑止力向上に努力している。

保護司候補者選出に際しては、保護司会に対して委員選出のアドバイス、会場提供など「保護司候補者検討協議会」には率先して協力している。

担当地区の皆様と心を一つにできる保護司になればと願っている。

自己研さんに励み、明るい社会づくりのため行動しよう 平成29年度中国地方更生保護女性会員研修会を開催

平成29年9月28日～29日の両日、ニューウェルシティ出雲（出雲市）において、中国地方の更生保護女性会の指導的立場にある会員約60名が一堂に会し、平成29年度中国地方更生保護女性会員研修会が開催されました。

本研修会は中国管内各県で開催されているところ、本年度は島根県更生保護女性連盟が主催県となったことから、島根県連では1年以上前から準備を重ね、開催に至ったものです。

研修1日目は、中国地方更生保護委員会・荒木龍彦委員長の講話「更生保護が今取り組みたいこと」、島根県海士町・山内道雄町長の講演「ないものはない～離島からの挑戦」を受講した後、「地域を元気にする更女の活動にするために」をメインテーマに、後継者育成、地域振興と更女の役割、組織の活性化を



テーマとした三つの分科会に分かれて研究協議を行いました。

2日目は、平成28年度“地域との連携・協働活動推進地区”である倉吉地区（鳥取県）、倉敷地区（岡山県）、平生町（山口県）の各更生保護女性会から活動事例発表が行われ、研究協議として前日の分科会結果報告と全体協議が行われました。各地区からの実践報告、また、研修の総括としていただいた荒木委員長の講評は、参加した更女会員に活動への自信と誇り、そして今後の活動への大きな示唆と勇気を与えるものとなりました。

来年度の同研修会は岡山県での開催が決定しています。



更生保護の心を広め、あたたかな人間愛を届けたい 平成29年度(第57回) 愛の図書贈呈式を開催

平成29年12月8日、松江保護観察所会議室において、島根県更生保護女性連盟主催による「愛の図書」贈呈式が行われました。これは、子どもたちや、心ならずも罪を犯した人たちに、「感謝する心」や「人を思いやる心」を培ってほしいとの願いから、地域の方々から頂いた募金で矯正施設や各市町村の幼稚園、保育園、小中学校に図書券を贈呈している運動で、今年で57回を迎えます。

贈呈式では、来賓に島根県知事代理、島根県保護司会連合会長を迎え、島根県内からお招きした矯正施設や児童相談所、更生保護施設等の代表者に、島根県更生保護女性連盟・板倉靖子会長から図書券が贈呈されました。

なお、当日の贈呈先は次の11の施設です。



贈呈先

松江刑務所・美保学園
島根あさひ社会復帰促進センター
松江少年鑑別所・わかたけ学園
中央児童相談所・出雲児童相談所
浜田児童相談所・益田児童相談所
更生保護法人しらふじ
島根県女性相談センター



第67回“社会を明るくする運動” 作文コンテスト 島根県最優秀作品



みんなで作ろう！

いじめのない明るい社会を！

島根県・安来市立南小学校 6年
林 愛 結

毎日、新聞を見ていると、人が死んだという事件や事故が多く書かれています。「人の死」の中でも私の心に一番つきささるのが「いじめによる自殺」という記事です。私は、そんな記事を目にするたびにいつも思うことがあります。いじめには、いじめる人といじめられる人がいる。いじめられ、自殺してしまった人には、相談できる人がいなかったのか。そして、いじめる人は何で人の心や体を傷つけてしまうのかと。

私のクラスは「いじめ」はありません。例えば、だれかがまちがった事をしていたら、友達がその人に教えたり注意したりしています。そして、その人は「ありがとう、教えてくれて。」と、それを認めてくれます。私は、みんなと過ごしてきて「ケンカといじめはちがう」と思うようになりました。友達がケンカをする時があります。でも、それはお互いを信頼し合っているからこそ何でも言い合えるのだと思うのです。だから、お互いの考えや思いが通じなくて言い合いになったりしても、時間をかけて歩み寄ったり、相手を受け入れたりできます。相手を思い合えるじまんのクラスです。私はこのクラスが大好きです。

私の妹は、今、小学校三年生です。一年生の時に、目の病気で小児弱視と診断されました。その時から度のきついメガネをかける事になりました。「メガネをかけるなら絶対学校に行きたくない！」妹がそう言いました。私も家族もその言葉を聞いて悲しくなりました。メガネをかけて学校に行ったら、からかわれる、笑われる、と思ったのです。いつも明るく前向きな妹のその言葉は衝撃でした。私も、妹がだれかに何か言われるのでは、と心配しながら学校に行きました。すると、当時の私の担任の先生が「雅結さんのメガネ、宝石みたいにきれいなピンク色でとてもステキだね。」と言ってくれました。クラスの友達も上級生も「まゆちゃん、かわいい！」「そのメガネ似合ってるね。」「私もそんなメガネしたいな。」と言ってくれたそうです。その時の妹の嬉しそうな顔は忘れられません。この時「変なの。」「似合っていない。」など、言われていたら、妹はどうなっていたのだろう、とこわく感じました。「いじめ」の一つには、人と違った外見の事からかかったりして平気で人を傷つける事があります。たった一言で人の気持ちは良くも悪くも大きく変わるといいます。「すごいね」「がんばって」など、嬉しくなる言葉をかけてもらえると、それだけで明るい気持

ち、前向きな気持ちになれます。でも、世の中は明るい言葉だけではありません。「死ね」「気持ち悪い」「来るな」など、人を深く傷つけ暗い気持ちにさせる言葉があり、そんな言葉を平気で発する人もいます。だから新聞では「いじめで自殺」という痛ましい記事がなくならないのです。一人でも注意をする人が増えればいじめは減っていくはずですが、でも、注意をする人も大きな勇気がいると思います。注意をして自分がいじめられるのでは、と思う気持ちも分かるし、だから仕方なく一緒にいじめる側になってしまう人もいるのかもしれない。

「いじめ」をしてしまう人でも、生まれて最初から悪い人はいないと思います。友達や家族、だれからも気持ちを分かってもらえないまま、育ってきたのではないのでしょうか。だから、悲しい苦しい思いをしている人の気持ちから目をそむけてしまうのではないのでしょうか。

私は小さい頃からお母さんにずっと言われている事があります。「自分もしいじめられても、決していじめる側になってはいけない」「自分がいやだと思う事は絶対に人にしてはいけない」と。私は、まちがった事をしている人がいたら、ちゃんと自分の口でその事を伝えたいと思います。勇気がいるしこわいけど、そういう小さな事から勇気を出して伝えられる人になりたいです。そして、私は、もっと多くの人にほんの少しでもいいから勇気を出して自分の出来る事をやってみませんか！と伝えていきたいです。私達が今出来る事は、相手の気持ちになって考える事だと思います。「思いやり」の気持ちをもって人との関係を大切にしていける事で、いじめを減らしていけるといいます。

最後に、新聞にはよく「容疑を否認している」とあります。この一文を見て思います。自分がやってしまった事はきちんと認めて、つぐなってほしいと。そうでないと、また同じ事をくり返しながら生きていく事になり、自分を一生変えられないと思うからです。一度やってしまった事を元に戻す事はできません。けれどこれからだと思います。これからどんな事をしていくか、自分自身でいくらかでも未来を変えていけると私は思います。二度と同じ事を起こさないよう、深く考えてほしいです。一人ひとりが「今」の自分を見つめ直し、いじめなどのない明るい未来、明るい社会をみんなで作っていききたいです。



僕を変えた日



島根県・松江市立玉湯中学校 1年
村上 優斗

最近、子供が親に対しての殺人や暴力といった犯罪を起こすニュースをよく耳にする。中学生や高校生が親を刺すなんて衝撃的である。自分の思い通りにならないがために簡単に殺害するなんて、僕には考えられない。

しかし、一方で
「うざい。」
「面倒くさい。」
という言葉を目にする。僕は親に向かって、言ったことはないが、心の中で
「うるさい。」
「うざい。」

と、叫びたい気持ちになったことが度々あった。注意されたり、叱られたりする度に腹が立ってくるのだった。

僕は、そうはいつでも、この春の入学式を楽しみにしていた。なぜなら、単身赴任をして、ずっと離れて生活していた父が四月に玉湯に戻り、両親二人がそろって入学式に参加できると聞いていたからである。そんな時、突然、悲しい出来事が起こった。

僕が寝ている時、母が大きな声で叫んだ。
「お父さん、しっかりして。」
父は夜中に意識を失い、救急車に乗って病院に運ばれたのだ。全く動くことができず、ベッドの上で医師や看護師に囲まれ、呼吸器を付けて倒れている様子を見て、心臓が張りさけそうで、苦しくなった。

次の日から、今までの生活がガラッと変わってしまった。今までは四人で食事をしていたが、母は父の看病に向かい、弟と二人でお弁当を食べる日が続いた。テレビを見ても楽しくならず、勉強を見してくれる人もいなく

なった。父の代わりに弟の宿題をがんばって見ていた。時には二人で先に寝た。静かで、さびしい夜が続いた。

「早く、いつもの元気な父の姿が見たい。」と毎日願ひ、自分たちで生活をし、時々病院にも出かけた。父が入院したことで、親の大切さやありがたさにあらためて気付かされた。当たり前のように送っていた生活が、実は親のおかげであることを知ると、これまで親に対して

「うざい。」
という態度を取っていたことが、自分で悲しいことに思えた。何不自由なく生活できていたのは、親が僕たちに愛情を注いでくれていたおかげだと思うと。

二ヶ月後の六月、父は無事に退院できた。元気な姿で戻ってきてくれた時、今までの恩返しをしたいと思いますようになった。

僕たちはもっと、家族や友達、先生など、今、周りに当たり前のようにいる人に、実はたくさんの支えや助けを受けて生きていることを考え、知るべきだ。そして、感謝する気持ちを忘れずに日ごろから生活していかなくてはならない。

「うざい。」
「面倒くさい。」
という言葉は、人に対して口に出してはならない。きっと、大人になって、自分が言ったことについて悔やむ時がくるだろう。

「ありがとう。」
が素直に言える。そのような社会を自分の心から作っていきたい。

第67回“社会を明るくする運動”作文コンテスト入賞者

【小学生の部】

最優秀賞

第67回“社会を明るくする運動”
島根県推進委員会委員長賞(1位)

『みんなでつくろう！』

いじめのない明るい未来を！

安来市立南小学校6年 林 愛結

優秀賞

島根県保護司会連合会長賞(2位)

『広い心で』

出雲市立朝山小学校6年 高橋 優子

更生保護法人島根保護観察協会理事長賞(3位)

『向きあう勇気』

出雲市立鱒淵小学校5年 野津 咲月

山陰中央新報社賞

『人と人がつながるために』

大田市立静間小学校6年 月森 梨央

『二つの花はキーワード』

浜田市立雲雀丘小学校5年 岩田 葉月

島根県更生保護女性連盟会長賞

『自分の気持ちを伝えよう』

隠岐の島町立磯小学校5年 藤野 泰秀

『行動に移すことの大切さ』

大田市立大田小学校6年 山根 光佑

島根県BBS連盟会長賞

『犯罪をなくすために、』

私たちが今できること』

浜田市立三階小学校5年 邊 麻衣

『安全で安心して暮らせる社会』

松江市立玉湯小学校5年 伊達 大洋

【中学生の部】

最優秀賞

第67回“社会を明るくする運動”

島根県推進委員会委員長賞(1位)

『僕を変えた日』

松江市立玉湯中学校1年 村上 優斗

優秀賞

島根県保護司会連合会長賞(2位)

『少年非行は誰が悪いのか』

江津市立青陵中学校3年 泉川 真帆

更生保護法人島根保護観察協会理事長賞(3位)

『犯罪や非行を防止するには』

大田市立志学中学校3年 井上 彩花

山陰中央新報社賞

『家族』

出雲市立斐川西中学校3年 藤澤ほのか

『大好きな町を伝えることで』

江津市立江津中学校1年 橋井 佑空

島根県更生保護女性連盟会長賞

『心をつなぐ言葉』

雲南市立木次中学校3年 小林 愛実

『地域とつながること』

安来市立広瀬中学校3年 吉田 奈央

島根県BBS連盟会長賞

『私と相手のふつう』

雲南市立吉田中学校2年 山田 理水

『自分の壁』

出雲市立斐川西中学校3年 多々納璃咲

応募総数1996点 (小学校675点) (中学校1321点)

シリーズ サポートセンターだより 益田地区更生保護サポートセンター視察について

益田地区更生保護サポートセンターは、平成25年4月に開設し、4年が経過しました。

一番の特色は運営にあたる企画調整保護司が現在33名いることです。これは保護司全体の半数になります。「そんなに多くて何をするのか」「まとまりが無くなるのでは」とか様々な意見をいただきましたが、今では逆に連帯感が生まれて、協力し合い意欲も出て会の行事などには積極的に参加しています。

当初は、保護司の来訪すら少ない状況でしたが、最近を対象者の面接場所として、10名を超える保護司が利用し、相談に訪れる者も増えてきました。

隔月で自主研修・運営会議を開き、新任保護司に対する面接の手法や勉強会、悩みや苦労話をしたり、行事等についての活動方針の打ち合わせをしたりしています。時には、保護司の活動とは全く無関係な話題で、話に花が咲くこともあります。

又、更生保護女性会と協力雇用主会の事務局も併設しております。狭い部屋がますます狭く感じられ、声のボ

リューム調整ができない面々達には、少々閉口します。先般、広島高等検察庁の検事長の視察がありました。検事長はかつてサポートセンター設立にあたり尽力された方で、サポートセンターのあり方や活用方法として、保護司の憩いの場、オアシスであることを望んだと話しておられました。私達も少しでもその趣旨に近づけたらと思っています。

保護司としての有り様が、以前とは変わりつつある中で、開かれたサポ・セン、頼れるサポ・センとなるよう、まずは「1杯のおいしいコーヒーはいかがですか……」



東部地区・石見地区保護司代表者会議の開催について

平成29年10月16日に浜田市金城町内にある「みどり会館」において、石見地区保護司代表者会議が浜田地区保護司会にお世話いただき開催された。当日は、松江保護観察所長及び浜田市副市長並びに石見地区内の地区保護司会長・事務局長等の参加を得て、保護司会が抱える直近の諸問題について、熱心に意見交換がなされた。

また、同年11月6日には、安来市古川町にある「夢ランドしらさぎ」において、東部地区保護司代表者会議が安来地区保護司会にお世話いただき開催された。石見地区同様、観察所長及び各地区会長等の参加を得て、保護司会が抱える直近の諸問題について、熱心に協議がなされた。



保護司の異動

〔退任保護司〕20名

(平成29年11月30日付)

家島佳子(松江)	内土部康正(出雲)
石倉國男(松江)	土屋七生(大田)
栗原啓悦(松江)	野田律子(邑智)
中村莊八(松江)	桑原英寿(浜田)
舟越憲雄(松江)	小松ミチ子(浜田)
藤原脇義勝(安来)	門本眞喜子(益田)
高橋平治(雲南)	新田裕至(雲南)
渡部幸子(雲南)	

(平成29年12月31日付)

宮島智枝(益田)

〔新任保護司〕20名

(平成29年12月1日付)

安達政則(松江)	花山良治(出雲)
景山祐子(松江)	原田信(出雲)
須田哲史(松江)	吉田啓(出雲)
藤井裕子(安来)	大浅津磨伸(邑智)
楠木縁人(雲南)	佐々木美陸(浜田)
妹尾和明(雲南)	野津登(益田)
野津位登(雲南)	廣瀬万健(益田)
稲田昌史(出雲)	宮内也子(益田)
高見睦哉(出雲)	山本真靖(益田)

敬 弔

下記の方がご逝去されました。ご功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。

- 元保護司 神田修一郎 (出雲) (平成29年10月2日逝去)
- 元保護司 鎌谷 證眞 (大田) (平成29年10月5日逝去)
- 元保護司 松本 治美 (松江) (平成29年10月7日逝去)
- 元保護司 森岡 朗 (松江) (平成29年10月15日逝去)
- 保護司 岩田 拓郎 (安来) (平成29年10月15日逝去)
- 元保護司 大石 光子 (益田) (平成29年10月25日逝去)
- 元保護司 毛利 唯義 (大田) (平成29年11月22日逝去)

ご支援ありがとうございました

(島根保護観察協会)

敬称略

- 家島 佳子 小松ミチ子 坂本 圭祥
- 高橋 平治 野上 雄護 矢富 謙司
- 松江地区更生保護女性会
- 島根県更生保護女性連盟

(表紙写真説明)

国の天然記念物コウノトリが雲南市大東町で営巣、4羽のヒナが誕生しました。メス親鳥にアクシデントがあり、兵庫県立コウノトリ郷公園で温かく育てて戴き、7月、放鳥されました。「幸の鳥」でも有ります。大きく羽ばたいて、是非共、今春の営巣を期待しています。